

熊本工業高等学校【全日制】 令和7年度(2025年度)学校評価表

1 学校教育目標

三綱領のもと、学習活動や部活動を通して、豊かな人間性や礼節を身につけ、心身共に健康でたくましい、自らの可能性に挑戦し、進路実現を図る人材を育成する。また、次世代をけん引できる優れた工業技術をもち、国際社会で活躍する産業人材を育成する。

2 本年度の重点目標

- 1 学力の向上 ~基礎学力向上、熊工タイムの活用、授業改善~
- 2 工業教育の充実 ~ものづくり教育、産学官連携による人材育成~
- 3 人間力の向上 ~基本的な生活習慣の確立、規範意識の向上~
- 4 部活動の活性化 ~文武両道、競技力向上~
- 5 働き方改革 ~時間外在校等時間の削減、校務の整理・削減~

3 2つの最重点目標

【本校教育に関する満足度】~学校評価アンケートより
 ★指標【生徒】 家庭学習の取組 R5 50.3%→R6 56.8%→R7 70.0%
 【保護者】 いじめのない学校づくり R5 80.3%→R6 75.1%→R7 85.0%
 【働き方改革への取組】~学校評価アンケートより
 ★指標【職員】 業務の見直しや超過勤務の削減 R5 67.0%→R6 57.0%→R7 85.0%

3 自己評価総括表

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果及び課題
大項目	小項目					
学校経営	学校の経営方針	生徒、保護者、職員への理解	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートで学校目標の理解を80%にする。保護者の学校行事への参画を増やす ・「熊工に入学してよかった」を95%以上にする 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者会総会及び保護者会等で周知して、学校HPに掲載する ・公式Instagramで授業及び部活動の様子を随時発信する ・校長だより(校長室通信)の発刊 	A	<p>成果：保護者アンケートで学校目標の理解が87% (R6:79%)と目標を達成した</p> <p>課題：生徒アンケート「熊工に入学してよかった」が90% (R6:88%)と増えたが、目標には及ばなかった</p>
	目標達成に向けての取組	各部各科の取組と目標達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・年度末の評価で、小項目の評価がB評価以上を95%以上とする 	<ul style="list-style-type: none"> ・期首・期末面談及び主任主事との定期的な面談を実施し、成果と課題を把握する ・運営委員会の定例開催による各部各科の課題の共有と連携強化 	B	<p>成果：年度末の評価で、小項目の評価がB評価以上が97.2% (R6:96.6%)と目標を達成した</p> <p>課題：人事面談は計画通り取り組めたが、主任主事との面談の機会が少なかった</p> <p>手立：主任主事との定期的な育成面談のさらなる推進</p>
	信頼される学校づくり	保護者会と連携した活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の行事予定を月末までに遅滞なく決定し職員および保護者に連絡する。(完全遂行100%) 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者会役員の定例会を毎月実施し、保護者会活動が組織的に学校全体として活発に活動できるようネットワークの強化を図る 	B	<p>成果：定例保護者会役員会を毎月第1水曜日に開催し、情報共有ができた</p> <p>課題：執行部役員は3年生が多い、次年度を考えると学年のバランスも必要である</p> <p>手立：次年度から1、2年生保護者も補佐的に入れる</p>
	働き方改革	業務の効率化と超過勤務時間の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・職員学校評価アンケートで「業務の見直し超過勤務の削減」を85.0% ・時差出勤の申請者率30.0% ・業務の見直しを定期的に行う。 ・超過勤務時間の教員の要因を正確に把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・長期休業期間中の時差出勤の奨励 ・行事準備の重複を整理して準備負担の偏りを解消する等の年間行事の統合管理の実施 ・長時間勤務者との面談による課題把握と解決を図る ・ストレスチェックの結果を参考に育成面談や産業医への相談につなぐ 	B	<p>成果：職員学校評価アンケートで「業務の見直し超過勤務の削減」が目標値には及ばなかったが72% (R6:57%)と上昇した。時差出勤の申請者率33%と目標値を上回った</p> <p>課題：超過勤務80時間以上の職員の減少につながらなかった</p> <p>手立：該当者との面談の推進による意識改革と管理職による業務改善の推進</p>
授業改革	計画的な学習指導の充実	計画的な学習指導と適正な評価	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスによる計画的な授業を通じた基礎学力の定着と専門的な知識・技能の習得 ・観点別学習評価(3観点)を意識した学習活動を行うことによる指導と評価の一体化の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初に作成したシラバスの計画的な運用及び生徒への周知 ・学習活動やレポート、作品、発表等、生徒の観点別評価の工夫・改善 ・カリキュラムマネジメントの確立 	B	<p>成果：県工業部会主催のスキルアップ研修において評価方法の研修を行い、各科での評価の工夫・改善につながっている。教科の学習内容とともに、どのような資質・能力を育むのかも含めてカリキュラムを作成している</p> <p>課題：授業において、観点別学習状況評価は行われているが、授業の中だけで完結しない部分もある。教科を横断して広い視野を持って、目標達成に必要な学習を組み合わせるなどの工夫をする</p> <p>手立：さらなる観点別評価の工夫・改善</p>
	授業改革	わかる授業、探究的な学びの実践	<ul style="list-style-type: none"> ・授業評価アンケートにおける「授業の内容が理解できている」の項目で「そう思う」「ややそう思う」が90%以上 ・授業テーマ「主体的・対話的で深い学びの実現」、「ICTや一人一台端末の効果的な活用」の授業の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的・対話的で深い学びの実践 ・1人1台端末を活用した学習の充実 ・研究授業、熊工Day、公開授業の更なる活性化 ・魅力ある学校案内の作成及び学校ホームページ、公式Instagramなど情報発信の充実 ・授業アンケートによる生徒の現状実態把握と教師の授業改善 	B	<p>成果：「授業内容の理解」の項目については92%であった。学校見学会を2日間行い、中学生・保護者と1800名もの参加があった。今年度は7月に公開授業として「熊工Day」を土曜開催とした。保護者、地域の方々や中学生などおよそ900名の参加があり、活性化および情報発信に繋がった</p> <p>課題：情報発信が公式Instagramに偏ってきており、ホームページの写真等のリニューアルが必要である</p> <p>手立：公式Instagramの継続、ホームページの写真や記事を最新のデータにする</p>

学力向上	基礎学力の向上	確かな学力の定着と学びに向かう姿勢の構築	・前期末及び後期末における関係生徒保護者会該当者数の昨年度比10%減 ・基礎学力の定着とともに家庭学習時間の定着。生徒による学校評価アンケートで「家庭学習の取組70%以上」	・授業における生徒理解力の向上と成績不振者に対する事前指導の充実 ・観点別学習評価の方法を確立し、生徒の学習意欲につながる評価の徹底 ・熊工タイムの時間において週1回国語・数学、週3回英会話を実施し基礎学力の定着 ・基礎力診断テスト(ベネッセ)を活用した基礎学力の定着と結果分析による振り返り学習の確立	C	成果：基礎力診断テストを年2回(3学年は1回)実施し、テストの結果と分析結果の説明を各学年会においてベネッセ担当者より行った。9月家庭学習調査で1日の家庭学習を「ほとんどしていない」が39.5%で12月現在では13.6%あった 課題：熊工タイムについて、週の月水金に「朝読書・英会話」、火に「国語」、木に「数学」の実施とした基礎学力の定着に向けて、各科で内容を検討し充実を図り実施する必要がある。学校評価アンケートで「家庭学習の取組」は50.7%と目標達成できなかった 手立：家庭学習調査の実施だけでなく、家庭学習の習慣化させる取組を実施する(例：学習ノート作成・点検) 熊工タイムの充実を図る
	読書活動推進による学力向上	読書に親しむ環境の提供	・「朝読書」に集中できる環境の支援。黙読の状態を10分間持続する	・朝読書時間の図書部員による通常巡回支援に加えて、定期考査後を特に重点的に巡回支援する ・「出張図書館」カートを2台から3台へ増加し、生徒借用の利便性を向上する	B	成果：担任や科の先生方のご支援のもとほとんどの生徒が10分間の黙読ができた 課題：ときどきクロムブックや教科書等を見ている生徒がいる 手立：机上5Sの推進(例：机上は読書本のみ)
		図書活動の充実	・図書館の本において、一人当たりの貸し出し冊数を、年間4.9冊以上(R6:4.7冊)	・1年生対象の図書館オリエンテーションの実施 ・図書館報「ひばり」や「新着図書案内」等を通して読書意欲を喚起する	A	成果：一人当たりの貸し出し冊数は10月末まで4.2冊(R6:3.3冊/10月末) 課題：10月でR6年度をかなり上回っており、現在の取り組みを継続する
生徒の知識習得量の向上	・読書アンケート(1月)において、「いろいろな知識が増えた」50%以上。(R6:29.8%)	・各教科・科目における授業及び「調べ学習」等の探究的学習の支援をするため、普通科及び工業科の蔵書・資料等を取り揃える	B	成果：授業での図書館使用数は10月末まで72時間(R6:61時間/10月末) 課題：授業での図書館使用数が10月でR6年度を上回っている。読書アンケート(1月)の結果を待ちたい。→結果「いろいろな知識が増えた」38.8%(前年比+9.0) 手立：職員購入希望図書調査及び生徒読書アンケートにおいて希望のあった学問系書籍を中心に購入し、ニーズに応える		
キャリア教育(進路指導)	学校紹介就職指導の充実	・学校紹介就職希望者の進路実現に向けた学年・科・地域社会との連携	・1次応募での90%以上の合格、内定率100%の年内達成、県内就職率40%以上を目指す。	・生徒、保護者への適切な進路情報の提供を行う ・地元企業の良さを生徒が知る機会を設け、プライト企業ハンドブックや企業との交流会等を活用する ・ものづくり教育とキャリア教育の推進によって、望ましい職業観を醸成させ、早期離職の防止につなげる	B	成果：一次応募による内定が96%、現在に216人の企業就職希望者が内定した。一次不調者1名が受験準備、2回不調だった生徒が進学に変更、公務員志望者からの紹介就職への変更が1名である 課題：こども5人以上が同企業へ就職する生徒が散見された 手立：生徒、保護者への適切な進路情報の提供を行う。地元企業の良さを生徒が知る機会を設ける。ものづくり教育とキャリア教育の推進によって、望ましい職業観を醸成させる
	公務員就職指導の充実	・公務員就職希望者の進路実現に向けた学年・科・官庁との連携	・希望者の90%以上の最終合格者を目指す。	・個別面談や外部講師の講座を活用して進路意識の啓発を行い、生徒の積極的な合格内定に向けた学習を促す ・専門高校の利点を生かし、国家一般職の技術職への応募を勧める ・面接指導等の充実を図り、生徒の実情に即したきめ細かい懇切丁寧な指導を実践する ・国家一般のネット出願説明会の実施や続きの最終画面提出や受験番号の提出を徹底する等、出願に関する指導体制を充実させる	B	成果：就職説明会(熊本市消防局・熊本市役所技術職・熊本県警察)を開催し、公務員の仕事内容の理解や進路に対する意識の向上につとめた。消防士の希望が多いので、今年インターンシップに初めて熊本市消防局にお願いした。36人の公務員志望者のうち、29人が内定(81%) 課題：3年生で公務員に変更する生徒がおり、基礎学力不足による不調につながった感がある。また、専門科目を活かせる技術職の希望が減少傾向にある 手立：担任や生徒、保護者への企業情報を提供する。早めの受験対策を促し、受験倍率が安定している技術職をPRする
	進学指導の充実	・進学希望者の進路実現に向けた学年・科、上級学校との連携	・国公立大学及び高専編入希望者の70%以上の合格を目指す	・工業高校から大学へ進学するメリットについて1年次から計画的に指導することで、進学意識を高める ・課外授業への積極的な参加を促し、国公立や難関私立大学、高専編入等に必要学力の向上を図り、工業高校ならではの受験方法を生かせるように計画的に受験指導する ・各科との連携を強化し、個別の学習指導や面接指導、小論文指導、専門教科指導の充実を図る	A	成果：1・2年生の進学希望者に向けて、ベネッセやリクルート、熊本大学などによる進路関係講話を実施し、生徒への働きかけを増やした 課題：受験校決定や出願書類の提出が遅く、対策を始める時期が遅れた。受験計画を立てていない生徒がいた 手立：担任と進学担当が密に情報共有し、早期に面談で進路選択や受験計画を話し合う
基本的な生活習慣の確立	・出席率向上	全学年共通 皆勤・精勤者合わせて250人(1クラス25人)以上(目標70%)	1学年：出欠状況の把握や保護者との連携を密にし、生徒の生活背景の理解に努める(家庭訪問の実施) 2学年：日常から生徒の様子に目を配り、小さな変化も見逃さず、変化に対しては常に学年で情報共有をおこない、科および教育相談部と連携し指導にあたる 3学年：学校生活における基礎・基本の徹底(5S)、保護者との連携を図る。また、様々な場面における熊工生としての自覚を促し、規範意識を高める	B	成果：健康管理を含めた基本的な生活習慣の確立に取り組めた。5Sを柱とする基礎・基本の徹底と保護者との連携が図れた 課題：皆勤・精勤者率70%は1年生55%、2年生70%、3年63%と全ての学年で達成できなかった 手立：職員間の連携強化による生徒理解と観察の推進。学年に応じた目標の理解と自己管理の徹底	

生徒指導	規範意識の醸成	・法律及び校則遵守の醸成	・特別な指導件数 全校生徒1%以内	化、学年、部活動等と連携し、熊工生としての自覚と誇りを促す	A	成果：科集会や学年集会、頭髮服装指導などで校則や熊工生について各先生方から周知徹底出来たことで特別な指導7件7名と昨年に比べ大幅に減少することが出来た 課題：部活動生との連携を密に図りたい
	安全意識の醸成	・交通及び防犯の安全意識の醸成	・ヘルメット着用100%、自転車二重ロック施錠率85%以上	・登下校指導及び校外指導を行い、ヘルメット着用の徹底に取り組む。月1回の校内2重ロック点検を実施する	B	成果：登校時のヘルメット着用100%達成 課題：科で月1回2重ロック点検を実施しているものの、自転車2重ロック施錠率が85%以上を達成できていない 手立：2重ロックできていない生徒の指導を徹底する
	生徒会活動の充実	・自発的な生徒会総務（執行部）の活動	・よりよい熊工づくりを目的として、現状を明確に把握し、本当に必要なものを見定め、課題を整理するとともに、改善のための提案・企画・運営ができる生徒の育成を目標とする。	・前後期それぞれ2回程度、各種委員会を開催並びに生徒部との連絡を密に取り、現状、課題を把握する ・週一回生徒会総務会を行い、企画、運営計画を立てる ・生徒会の生徒には日頃から新聞をはじめ様々なメディアから情報収集をしアップデートに努めるよう指導する	B	成果：各委員会毎に活動にあたって礼法をはじめ活動内容の確認、実践等円滑に進めることができていた総務委員においては週1回の定例会ははじめ行事毎に集めし相談しながら進めることで何とか滞りなく行事を終えている 課題：大きな行事での取り掛かりを早くしてこれまで以上の余裕のある運営を目指したい 手立：行事について年間を通した全体的な視点で見て、特に大きな行事についてはこれまでの反省を意識しつつ先ず年度当初に議論した上で早めに取り掛かる
人権教育	人権教育推進の機能強化と研修の充実	・人権教育推進委員会及び職員研修の充実	・年間3回の職員人権研修、6回以上の人権教育推進委員会の実施	・教職員研修の内容や資料を生徒の人権学習LHRとリンクして理解しやすく改良し、参加体験型ワークショップ形式による研修とすることで、教職員各々のモチベーションと参加率向上及び修得内容の深化を図る	B	成果：LHRとリンクした職員研修は実行できた 年間3回の職員人権研修、6回以上の人権教育推進委員会は予定も含め実行できた 課題：体験型ワークショップの実施ができなかった 手立：レポート研修やグループ討議の機会を設け、少人数協議で主体的参加を促す
	人権教育の指導法等の工夫・改善	・「第三次とりまとめ」や人権教育資料を活用した指導改善	・外部教材や資料等を活用した専門的かつ効果的な参加体験型セミナー等への教職員参加100%（後日復刻を含む）による研修成果の獲得	・人権同和教育課HPからのデジタル教材の有効活用と、校外人権研修の職員参加推奨を行う	B	成果：デジタル教材の利用は職員研修、LHRで十分活用できた 課題：参加体験型セミナーをそもそも実施できなかった。校外人権教育研修への職員の参加を促進する 手立：参加体験型セミナーの企画、実施を行い、校外人権研修の告知を定期的に行う
	命を大切にすることを育む指導	・自他の生命を尊重する心の育成	・各学年年間2回以上の人権教育LHRの実施	・人権教育LHR前の指導案等の早期作成、決済を受け、各担当及び学年会等における早期の準備と内容確認を円滑に実施する	B	成果：LHR指導案の早期作成、準備は滞りなくできた LHRの係分担も各担当が責任を持って取り組んだ 各学年年間2回以上の人権教育LHRは予定も含め実施できた 課題：指導案のマナー化と授業形態の再考 手立：過去の事例にとらわれず、最新の教材を積極的に取り入れ、講義型から参加型へ
特別支援教育	校内支援体制の構築	・校内支援体制の充実	特別支援教育の校内支援体制の丁寧な構築とその充実	・校外研修の職員への案内と参加研修の復講。特別支援教育に関する職員研修の実施 ・特別支援教育推進委員会による全体統括と推進。特別支援教育コーディネーターによる保護者・生徒との定期面談。授業担当者会の実施 ・「個別の指導計画及び個別的教育支援計画」の作成と引継ぎ	A	成果：計画していた内容はほぼ実施できた。保護者との面談も確実に実施できた 課題：①中学校への速やかな訪問と情報収集 ②知的な遅れなく発達に偏りがある生徒の把握を1年次から実施
	多様な生徒への組織的な対応	・細やかな実態把握と情報共有	支援が必要な生徒の実態把握とその支援策の職員での共有	新入生に関して中学校訪問と春休み面談での情報の速やかな集約。長期休暇明けの「心と体のアンケート」実施と集約・分析。職員研修（生徒理解）の実施とΣ検査（心理検査）の結果についてフィードバック研修の実施。ケース会議で支援策について実態把握	A	成果：計画していた内容はほぼ実施できた 保護者との面談も確実に実施できた 課題：①中学校への速やかな訪問と情報収集 ②知的な遅れなく発達に偏りがある生徒の把握を1年次から実施
いじめの防止等	いじめの未然防止及び早期発見・早期解消	・校内組織の機能強化といじめ防止への意識高揚	・生徒指導部会を月1回以上実施し、生徒指導部間で情報の共有を図る	・生徒指導部間で各科の情報を共有し、気になる生徒に対して組織的に対応する	B	成果：月1回以上の部会を実施し、登校指導時に気になる生徒などの情報共有を図ることが出来た 課題：各科及び担任からの情報を収集することが不足していた 手立：生徒指導部会で科会で出た情報を集約し、情報の共有の徹底を図る
		・いじめ確認後の家庭・関係機関等との連携による適切な対処	・いじめ解消100%	・情報集約者を中心にいじめ問題に組織的に迅速に対応し、担任、科、学年、部活動顧問と連携を図りいじめの解消に取り組む	B	成果：いじめに関する情報を集約し、組織的に迅速に対応することが出来た 課題：全てのいじめ案件の情報集約が出来ていない 手立：いじめ情報集約の徹底
総合型コミュニケーションスクールの推進	・学校運営協議会の充実	・学校運営の基本方針に係るスクールミッション・ポリシー、教育目標、等を確認し、安全教育、防災教育等について協議を行うことで、より充実した内容に改善する。	・学校運営協議会を年3回開催し、意見交換で得た提言等を学校運営に生かす ・学校評価アンケートの集計結果を基に意見交換を行い、学校教育全般についての改善を図る	A	成果：スクールミッション・ポリシーや学校教育目標等に理解を得ることができ、活動の詳細について意見交換ができた 課題：いただいた提言を整理し、学校運営に活かしていくことが今後の課題	

地域連携 (コミュニ ティ・ス クールな ど)	地域との連携強 化	・熊本市及び校区 防災連携会と地域 防災の充実	危機管理マニュアルについて学校運 営協議会などからも意見を聴取し、 更新する	学校運営協議会の委員にマニュアルを配付 し、検討してもらう 地域の避難訓練を通して、地域との連携を 強化する	B	成果 ：熊本市主催の避難所運営訓練で砂取地 区の方からの意見が聞け、気づきもあつた これに合わせて避難所としての施設利用計画 を改めて作り直した 課題 ：避難所運営訓練において生徒への還元 があつてもよいのではないかと思う 手立 ：公務員（市役所など）を志望する生徒 に参加を促す
		・工業高校の技術 を生かした地域課 題の取組の充実	・地域の現状を把握し、課題を整理 するとともに、改善のために工業技 術を生かした提案や企画及び取組み ができる生徒の育成。	・地元代表者等と会議を持ち、地域の現状 や課題を把握し、各学科の専門性を生かした 課題改善・解決の方策立案に取り組む ・日頃から学科間や校務分掌間において連 携を図りながら、地域の課題解決に取り組 む	B	成果 ：地域と、また学科間における連携した 様々な取組みを通して、技術・技能を活かす と共に、専門性向上を図った 課題 ：依頼以外の地域課題への対応は更なる 工夫が必要 手立 ：地域課題へ対応できる担当者の育成
工業 教育	ものづくり教育 の充実	・工業教育におけ る知識や技能・技 術の習得、課題発 見と解決する力の 育成	・分かりやすい授業との回答85%、 学習への興味関心意欲が向上した生 徒80% ・生徒及び職員の知識、技術の向上 ・課題発見とその解決ができる	・ICT機器等を活用した分かる授業の実 践による学習意欲の喚起 ・熟練技能士を招いた実技研修会等による 技術力の向上 ・座学や実習で身につけた知識や技術をも とに、課題の発見と改善・解決ができる応 用力を身につける	B	成果 ：ICT活用、関係諸機関との連携、学 習内容の見直し等により、86%の生徒が授 業が分かりやすい、94%の生徒が積極的に 授業に参加していると回答 課題 ：知識の定着や家庭学習に関しては更なる 工夫が必要 手立 ：ICT機器を活用し、家庭で振り返り学 習ができる教材等を各科で検討する
		環境の整備	・産学官連携等の 教育環境の充実	・座学、実習、課題研究、その他の 活動等において産学官連携を図り、 専門性向上の環境を整える。 ・事故や怪我の無い学習環境づくり	・産学官連携により専門教育の充実を図 り、各科の専門性向上に努める ・5S活動等により実習室の整理整頓はも とより、事故を未然に防ぐ環境づくりに取 り組む	B
	専門性の向上	・各種コンテス ト・競技大会の指 導、資格取得の推 進による専門性の 向上	・ものづくりコンテスト等において 九州大会出場2種目以上。 ・技能士等の資格取得者輩出。 ・更なる上級の資格検定試験への チャレンジ。	・ものづくりコンテストでは早期に選手決 定し、基本練習を重視した指導に取り組む ・資格検定試験においては指導資料やテキ スト、指導方法などの工夫を図り、時間的 にも効率的な取組にする ・ジュニアマイスター認定を目標として、 上級資格試験へチャレンジする	A	成果 ：モノづくりコンテスト九州大会に4種 目出場した 各種資格等の取得においても高 い合格率を維持している 課題 ：資格試験等の受検料が値上がりし保護 者の負担感が増加 また一部難易度が上昇 し、合格率が下降している資格もある
部活動	部活動の活性化	・人間性の育成	・統率力ある生徒の育成	・競技成績の向上と社会で通用する人間性 育成の両立・さらなる挑戦を各顧問が意識 し、人間性の育成を顧問間で共通理解し指 導する	B	成果 ：各部競技成績が向上した 課題 ：校内校外問わず、生徒の競技力向上、 顧問の指導力の向上の場を設ける 手立 ：指導者の指導力を向上させ、さらに生 徒の競技力を高める
		・競技成績向上	・全国大会への個人・団体の出場数 の増加	・『全国制覇』を共通の目標とし、各部が 切磋琢磨することによる競技力の向上	B	成果 ：体育・文化部とも活躍が見られた 課題 ：全国上位の競技力を目指す 手立 ：全国レベルのチームと競争の機会を増 やす
		・事故防止	・重大事故の防止 ・怪我件数の減少	・5S活動の浸透、日常の整理整頓と道具 管理の徹底・顧問や部員に対し安全面の意 識づけの徹底	A	成果 ：各部各顧問により怪我・事故防止に努 め、大きな問題もなかった 課題 ：さらなる熱中症対策を行う
保健 安全管理	保健管理	・心身の管理	・定期健康診断及び諸検査の完全実 施に努め、事後措置を7月中旬まで に行うことで、生徒が健康・安全に 学校生活を送られるようにする。	・健康診断の徹底により疾病の早期発見を 行い、配慮を要する生徒を把握する ・事後措置の必要な生徒への治療勧告書発 行を7月に行い、事後措置徹底のため9月 に再度確認を行う	B	成果 ：健診結果に基づき、専門医受診や個別 の指導へつなげた 要配慮生徒一覧を作成し、行事毎の職員間の 情報共有の際に活用できた 課題 ：未受診者への再確認ができず、事後措 置徹底が図れていない 手立 ：事後措置として、治療勧告書の発行を 年2回行う
		・安全な学校環境 の整備	・安全点検・環境衛生検査を実施 し、危険箇所の早期改善に努める	・学期に1回、校内安全点検を実施する ・学校薬剤師と連携し、定期的な環境衛生 検査を行い、事後措置を徹底する	A	成果 ：学校安全点検は、学期に1回、計画通 りに実施した 課題 ：環境衛生検査では、空気検査に適した 時期に実施できていない（冬場のみ実施）
	安全管理	・危機管理	・緊急時の対応や連絡体制について 周知徹底し、学校管理下での事故を 防ぐ	・救急救命講習会（職員・生徒）を実施す る ・体育的行事での事故防止に努める ・アレルギー疾患生徒の把握とアナフィラ キシーへの対応について、職員へ周知する	A	成果 ：救急救命講習法を6月に実施し、また エビソンの使用方法についても確認したこと で、職員の危機管理意識の向上につながった 体育大会の負傷者への対応は適切に行うこと ができた 課題 ：時間の経過とともに危機管理意識が薄 れてくる 体育大会時の救護担当の人員不足

学校運営協議会において学校評価結果について以下のご意見をいただいた。

(1) 評価された点

- 熟練技能士等の外部指導者を招聘し実技指導の取組は、生徒の技術力向上と資格取得支援に大きく寄与しており、工業高校の専門性を高める有意義である。
- 神社の朱印帳カバー製作、公民館の修繕、賽銭箱改修、橋梁点検など、各学科の専門性を生かした地域貢献活動が幅広く行われており、生徒の実践的な学びと地域社会への貢献を両立している。また、JR 熊本駅でのイベントや地域行事への参加などの教育成果を地域へ還元する活動として評価される。
- 学校ホームページや SNS による情報発信が積極的に行われており、生徒の活動状況を地域や同窓会が把握できる取り組みである。また、同窓会による企業紹介の取組が生徒の進路意識向上につながっている。
- 自転車通学時のヘルメット着用率 100%や、挨拶がしっかりできていることなど、生徒の安全意識と規範意識の高さが地域から模範的な事例として高く評価されている。
- 防災教育について、防災避難訓練、落雷防止マニュアルの整備、マイタイムライン研修などが体系的かつ継続的に実施されており、実践的な防災教育として非常に充実している。
- 学校行事や地域連携活動において、生徒が主体的かつ意欲的に取り組んでいる姿が見られ、教育活動の充実と生徒の成長が実感できる取組である。
- 水害の被害に遭った西山中学校への技術支援など、専門性を生かした地域支援が迅速かつ主体的に行われており、地域から信頼される学校としての役割を果たしている。
- 時差出勤制度の導入や学校行事の精選など、働き方改革に向けた取組が実効性を伴って運用されており、教職員の勤務環境改善に寄与している。
- 専門教育の充実により生徒の進路選択の幅が広がっており、専門高校として地域産業を支える人材育成を担っている。
- 保護者、地域、学校が連携しながら生徒の成長を支えている体制が整っている。

(2) 課題として指摘された点

- 家庭学習に関する生徒の意識調査の結果が目標値を下回っており、部活動と家庭学習の両立が課題である。
- 県内就職率が目標値を下回っていることから、県内企業の経営者としての立場からも、県内就職促進に向けた取組のさらなる強化が課題である。
- 自転車交通ルールの改正に伴い、生徒への継続的な安全教育と指導体制の強化が必要である。
- 災害時における学校と保護者の連絡体制について、より迅速で確実な情報共有体制の整備が必要である。
- 夏季の実習や部活動における暑熱対策として、スポットクーラー等の設備整備の検討が必要である。
- マイタイムラインの実践については、豪雨災害など地域の実情を踏まえた内容を入れることで、一層効果があがる。
- ボランティア活動や災害時支援など、工業高校の専門性を生かした地域支援活動の推進。
- 家庭学習習慣の定着に向けて、部活動休養日を家庭学習の充実に活用するなどの具体的取組の推進。
- 学校ホームページのトップページの更新。

5 総合評価

評価項目の36項目のうち十分達成できているA評価が11項目と昨年度の5項目から倍増した点は評価できる。これはPDCAサイクル（計画・実行・評価・改善）が各分掌で機能し始めた結果と捉えている。また、B評価及びC評価には次年度に向けての手立てを明記した。この評価表をもとに年度末反省会で成果及び課題の協議を行った。今後も学校の更なる発展に向けて全職員一丸となって改善に取り組んでいく。以下に本年度の成果の表れた項目を以下に示す。

A評価

○図書館活動の充実

一人あたりの貸出冊数が昨年度に比べ20%程度伸びており読書活動の推進が図られている。

○キャリア教育（進学指導）

令和では国公立大学数及び合格率が最高値であり、個別最適化された受験計画と個別指導の成果が表れた。

○特別支援教育（校内支援体制）

委員会による全体統括、校内研修の充実、迅速なケース会議等の推進が図られている。

○工業教育（専門性の向上）

ものづくりコンテストで4部門（旋盤、化学分析、測量、溶接）が九州大会出場。特に「化学分析」部門で全国2位という成績を収めた。

○保健安全管理（危機管理）

救急救命講習を通じた職員の安全意識の向上、なかでも体育大会練習期間における熱中症予防対策、体調不良生徒への迅速・適切な対応が組織的に取り組めた。

B評価

○学校経営（働き方改革）

教職員の「業務改善と超過勤務削減」への肯定的評価が、昨年度の57%から72%へ大きく上昇した。また、職員の「時差出勤」の活用率が33%と目標値を上回った。80時間を超える時間外勤務者の減少が課題である。

○生徒指導（規範意識の醸成）

特別な指導の件数が昨年度に比べ82%減少した。自転車の二重ロック施錠率の目標達成が課題である。

6 次年度への課題・改善方策

次年度の課題・改善方策については、学校評価計画表（別紙様式4-1）中の評価項目ごとに「成果及び課題」に「手立て」として記載している。今後も本校の伝統を守りつつ、時代の要請に応える教育と学校づくりに取り組んでいく。以下に次年度に向けて主な課題と改善策を示す

（1）学力の向上（基礎学力の向上）

今回唯一のC評価の項目である「家庭学習に関する生徒の意識調査」の結果が57%と目標値72%を下回っており、家庭学習の習慣化と部活動との両立が課題である。

家庭学習は最終的には生徒自身が主体的に取り組めることが目標である。しかしながら、現状としては学習習慣を身に付けさせるために授業等の課題を課して、教職員によるまめな点検・フィードバックを行うことで学習習慣の強制から自走への転換を図る。

（2）学校経営（働き方改革）

教職員の「業務改善と超過勤務削減」への肯定的評価及び「時差出勤」の活用率が向上するなど組織文化の変容を示す傾向はある。しかしながら、80時間勤務を超える時間外勤務者をゼロにすべく、管理職による定期的な面談をとおして、超過勤務の要因を把握して積極的な業務改善を働きかけることで、最終的には本人の意識改革に取り組む。

（3）生徒指導（規範意識の醸成）

自転車通学生徒のヘルメット着用率は100%に近い状況であるが、自転車の二重ロック施錠率が目標値に到達していない。定期的な点検と声かけを徹底することで、生徒の防犯意識の高揚に取り組む。

（4）いじめ防止

迅速な情報共有体制は整いつつあり、認知したいじめは全て解消している。事案によっては、情報集約担当者への報告が遅れたケースが課題として残った。現在の情報共有体制の更なる強化を目指して、日常的な教職員間の情報共有と工業科主任会、学年会、科会、教科会等で迅速な生徒情報の共有と意見交換を積極的に推進することで、教職員のいじめに対する感性（感度）を高める取組を推進する。